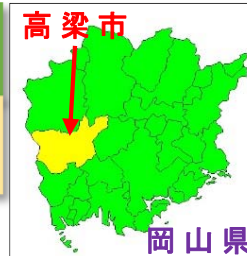


岡山県高梁市の取組事例



ポイント 市やJA等が新規就農者を育成し、就農時の農地を機構活用により確保

概要

- 高梁市は吉備高原の西端にあり、農地の多くは標高400m前後の高原地帯に位置し、冷涼な気候を活かした果樹や野菜の栽培が盛んで、特にニューピオーネ、夏秋トマトは県内屈指の産地。
- 近年は、高齢化による離農の増加に伴い遊休化が進行。担い手不足と有害鳥獣被害への対応(※)が急務。
※野猪等捕獲柵設置事業により野猪等防護柵を補助する対策(市)
- 市はJA、県、機構と連携し、新規就農者の育成と営農環境の整備を一体的に支援。

- (基本データ)
- ・農業地域類型: 中間農業地域・田畑型
 - ・総農家数 3,212戸
 - ・基幹的農業従事者数 2,183人
 - ・認定農業者数 195経営体(うち法人数 18経営体)
 - ・集落営農数 21
 - ・農業経営体の経営耕地面積
1,310ha(田888ha、畑422ha)
 - ・1経営体あたりの耕地面積 75.1a
 - ・主な農作物 ぶどう、トマト
 - ・農業委員数 18人 農地利用最適化推進委員数 7人

人・農地プラン

人・農地プランの策定方針

- 平成24～26年度にかけて18地区でプランを策定。
平成27年度に対象地区を見直した後は17地区のプランで市内全域をカバー。
- 毎年各プランごとに、推進委員会座談会を開催し、JA・普及指導センター等とともに現状確認や見直しを検討。

人・農地プランの概要

- プラン数 17(集落数373)
 - ・中心経営体数 236
(個人213、法人18、集落営農5)
- ・中心経営体の経営面積 389ha

農地集積

農地集積の取組方針

- 市、農業委員会、JA等関係機関による高梁市農地集積推進チーム会議を定期的に開催して情報共有を行うとともに、モデル地区を中心に話し合いを推進して、機構を活用した担い手への集積を一体的に支援。
- 利用権設定期間満了後の農地については、機構への切り替えを推進。

農地集積の現状 平成31年3月末現在

- 担い手への農地利用集積面積
532ha(集積率18.0%)

【内訳】

認定農業者	326ha
認定新規就農者	15ha
基本構想水準到達者	116ha
集落営農経営	75ha



霧に浮かぶ松山城



特産のニューピオーネ



特産のトマトの選果

農地集積の阻害要因

担い手不足から農地を守り切れず遊休化が進行

出し手要因

- 高齢農家は、周りに迷惑をかけたくない、という責任感から「体力が続く限り農地を守る」という意向が大半。手放す場合は地元の信頼できる農家に預けたいと考える傾向。
苦労して長年守ってきた農地に愛着もあり、権利移動が停滞。

受け手要因

- 遊休化した農地は、病虫害の温床や野生獣の住処となるなど営農に支障をきたすため借受に難色。
- 地元で信頼されている法人等は、すでに限界まで農地を引き受けており、これ以上の借受は困難。
- 特産品であるニューピオーネや夏秋トマト等の栽培技術を有する担い手が減少。



農業スクールの様子



和牛放牧

課題解決に向けた取組(工夫した点等)

市の取組

- 新規就農者や定年帰農者向けに、県（農業普及指導センター）、ＪＡと連携して農業スクール（ニューピオーネ等）を開校し技術習得を支援。
- 農地耕作条件改善事業を活用して就農用農地を整備。農地は機構が中間保有し、研修終了後に配分。
- 新規就農時に必要な果樹棚やビニールハウスを導入する経費を補助し、初期投資の負担を軽減。
- 土地利用型農業の経営安定を図るため、集落営農組織の法人化を推進。
→農作業に負担を感じる農家の農地や遊休化した農地等を機構活用により集落営農法人へ集積。
- 農地の荒廃を防ぐため、機構を活用して遊休農地を集積する取り組みを推進。
→障がい者の就労継続を支援する事業者や和牛放牧により里山風景の再生を目指す農事組合法人が機構を活用して遊休農地を借受。

ＪＡ、地区組織の取組

- ＪＡは、地域の衰退を防ぎたいとの思いから、各部会の理事を活用して就農希望者（ＵＩＪターン）を積極的に受け入れて就農までバックアップ。
各部会の理事は、研修生の「師匠農家」として、技術指導の他、研修用農地や住まいの確保に尽力するとともに新規就農者が地域に溶け込み信頼されるよう、しきたりや守るべきルールを伝授。
また師匠農家は、機構を活用して就農時の農地確保をサポートするとともに、就農者同士が交流する「後継者クラブ」（※）への参加を勧めて営農上の不安を解消。
- 後継者クラブは、日頃の交流活動でキャッチした出し手情報と受け手のニーズを地区組織（師匠農家、市、ＪＡ、農業委員等で構成）へ集約し、機構を活用したマッチングを推進。

※農業経営者としての資質向上を目的に設立した岡山県新農業経営者クラブ連絡協議会（事務局：農業普及指導センター）の下部組織。地域のつながりや農業者同士の結束力向上をサポート。

取組の成果・今後の方針等

- 新規就農者が産地の担い手として定住し活躍することで、遊休農地化を防ぐとともに県内屈指の産地を維持発展。